

# JTAG



## キャリアデザインワーキンググループ

---

**セキュリティ人材および関連業務に  
携わる方へのアンケート調査**

**ver 1.0  
(速報)**

2026/3

**長期的な視野で  
セキュリティ人材・セキュリティの業務に関わる方々の  
よりよいキャリア形成を目指す！**

## ■ 調査目的

本調査は、情報セキュリティ分野に従事されている皆様の資格取得・保有状況、キャリア形成、資格取得時の課題やご意見を幅広く把握し、今後の人材育成施策やキャリアパス設計、資格取得に向けた支援のあり方を検討するために実施する。

調査にあたっては、以下の観点を重視する。

- セキュリティ業務経験や資格取得・保有がキャリアや業務に与える影響の実態把握
- 資格取得の動機や障壁、取得後の効果・課題の明確化
- 年代・職位・地域・職種ごとの傾向や特徴の分析
- 今後の人材育成やリスキング施策への示唆の抽出

## ■ 調査方法

本調査は、情報セキュリティ人材および関連業務に携わる方を対象に、資格保有状況や資格取得の動機や障壁、取得後の効果などを多角的に把握することを目的として実施した。

- 調査時期：12月19日～12月22日
- 調査人数：1000人
- 調査方法：調査会社にてアンケートを実施
- 対象者：全国のセキュリティ関連業務従事者

調査概要は以下の通り

- 回答者の基本属性(性別、年齢、職業、経験年数など)
- 資格保有状況(IT・セキュリティ資格の種類、取得時期、組み合わせ)
- 資格取得の理由や取得後の変化・効果
- 資格未取得理由や取得に対する不安・障壁
- 自由記述によるキャリアや業務への影響、課題・要望

## ■ 対象資格

本調査では20の資格を選択肢で、その他の資格をフリー記述で収集した。なお、選択肢の20の資格は、日本国内のIT・セキュリティ分野において実務的な重要性和認知度が高く、かつ多様なキャリアパスや専門性を考慮し選定している。選定は以下の要素を持って行なっている。

1. 業界標準・国家資格  
IT・セキュリティ分野で広く認知されている国家資格として、基礎から応用まで幅広い層の実態を把握することを目的に選定
2. 実務直結・専門性の高い資格  
現場での実務や最新のクラウド・セキュリティ動向に対応し、現代の多様な業務ニーズに即した把握をすることを目的に選定
3. 国際資格・グローバル人材への対応  
グローバルに通用する国際資格も対象とすることで、管理職やエキスパート層、海外展開企業の実態も反映できる選定

## ■ 分析手法

収集したアンケートのデータを以下の手法で分析した。

1. クロス集計による傾向把握  
回答者の基本属性(年齢、性別、職業、経験年数など)や資格保有状況、取得理由、効果実感から属性ごとにクロス集計を実施し、年代別・職種別・地域別などの傾向や特徴を把握する。
2. 自由記述のテーマ分類・キーワード抽出  
自由記述欄に記載された内容については、内容ごとにテーマ分類を行い、頻出語やキーワードを抽出。資格取得による変化や障壁、キャリアへの影響など、主要な論点や感情傾向(ポジティブ/ネガティブ)を把握。
3. 組み合わせ・時系列分析  
複数資格の保有や、年代別の取得時期の分布など、キャリアパスや人材育成施策の設計に活用できるような組み合わせ・時系列の分析も実施。

## ■ 取得と保有の言葉の定義について

本書内では、取得と保有という言葉を使い説明を行なっている。  
それぞれの言葉は以下の定義により使い分けを行なっている。

### 取得

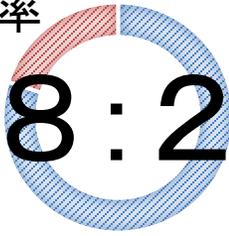
- 1、資格を取得した一次点を表す
- 2、資格を取得するという行動を表す

### 保有

- 1、実年齢において資格を保持していることを表す

# 回答者の傾向

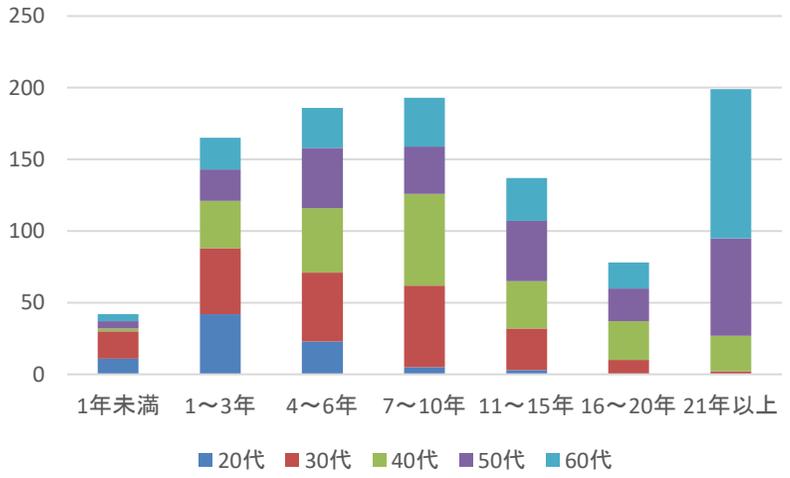
男性・女性比率



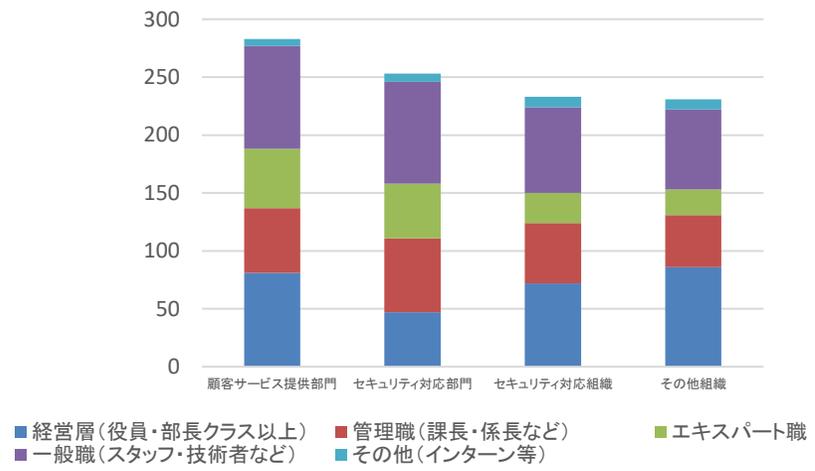
平均年齢



年代別業務経験年数



職位別所属部門

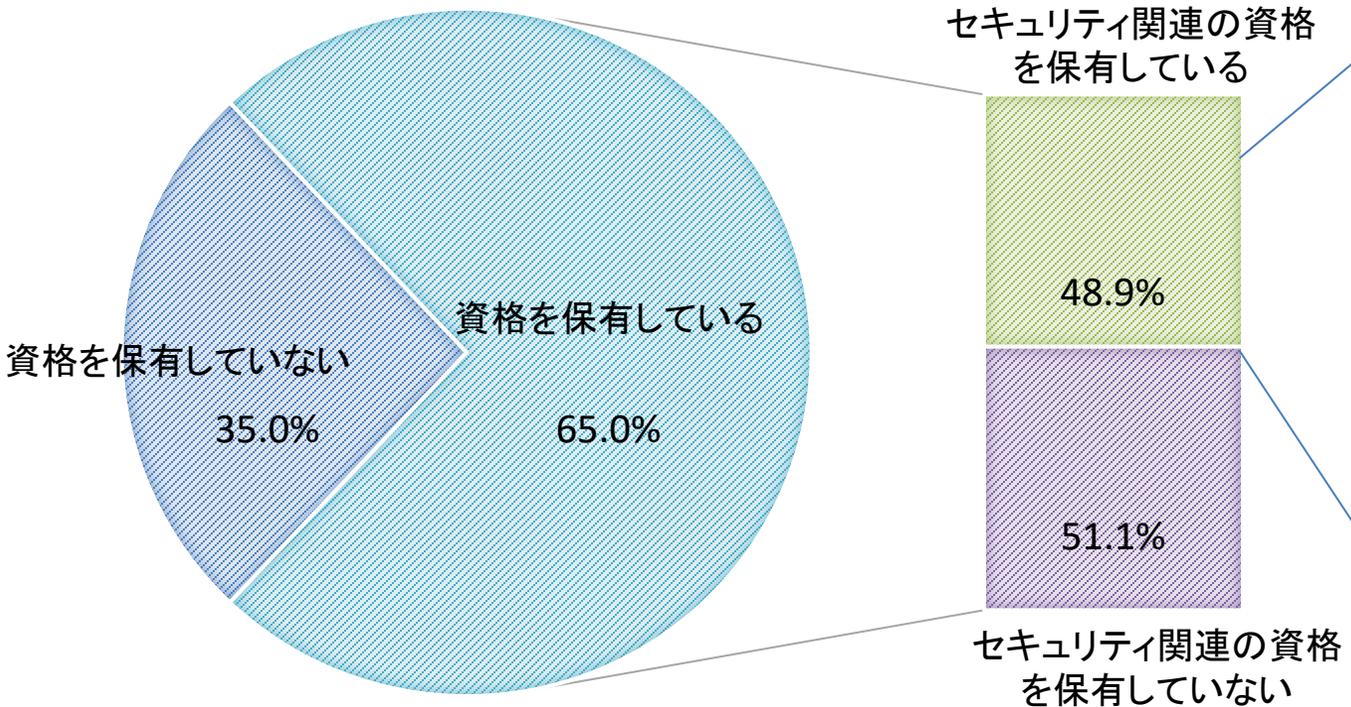


平均年齢は約48歳、20歳から69歳まで幅広い年齢層から回答があった。セキュリティ業務経験は1年未満から21年以上までバランスよく、多様なバックグラウンドを持つ人材が調査対象となっており、現場の実態を幅広く反映できた。

# 資格保有情報



## 資格保有状況



資格名	保有者数	割合 (%)
情報セキュリティマネジメント	132	41.5
基本情報技術者試験	125	39.3
応用情報技術者試験	76	23.9
情報セキュリティ管理士	76	23.9
脆弱性診断士	47	14.8
AWS認定セキュリティ	42	13.2
情報処理安全確保支援士	43	13.5
IT監査人	33	10.4
CISSP	25	7.9
CISM	14	4.4
CISA	18	5.7
CEH	13	4.1
CND	16	5
CompTIA Security+	11	3.5
CompTIA CySA+	13	4.1
CompTIA CASP+	8	2.5
GIAC	9	2.8
Cisco Certified CyberOps Associate	10	3.1
Microsoft (SC-900)	24	7.5
LPI Security Essentials	8	2.5
その他	23	7.2

なんらかの資格を保有している650名のうち、セキュリティの資格を保有している人は**318人**という結果であった。この中には、複数資格を保有している人も存在する。なお、資格保有者の実態はこの318名を中心に分析を行った。

# 各資格の取得時期別ヒートマップ



		資格名																			
		基本情報技術者	応用情報技術者	脆弱性診断士	情報セキュリティマネジメント	情報処理安全確保支援士	情報セキュリティ管理士	IT監査人	CISSP	CISM	CISA	CEH	CND	CompTIA Security+	CompTIA CySA+	CompTIA CASP+	GIAC	Cisco CyberOps	AWS認定セキュリティ	Microsoft SC-900	LPI Security Essentials
取得時期	10代	7	8	3	6	1	3	0	4	1	0	1	0	1	2	2	1	1	1	2	1
	20代	65	39	23	35	11	24	12	7	7	6	4	7	1	5	0	3	1	14	7	1
	30代	33	18	11	47	18	31	16	8	2	7	6	7	7	5	5	5	6	18	12	4
	40代	16	9	9	34	11	13	4	3	3	5	1	1	2	1	0	0	1	8	2	1
	50代	4	2	1	10	2	5	1	2	1	0	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1
	60代	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

各世代はどの資格を取得する傾向にあるのかを可視化する。学生のうちに取得した方もいるため、10代での取得という回答も目立つ。色分けは各世代で取得している資格が多いものを表している。

# 各資格の資格別取得時期ヒートマップ



		取得時期					
		10代	20代	30代	40代	50代	60代
資格名	基本情報技術者試験	7	65	33	16	4	0
	応用情報技術者試験	8	39	18	9	2	0
	脆弱性診断士	3	23	11	9	1	0
	情報セキュリティマネジメント	6	35	47	34	10	0
	情報処理安全確保支援士	1	11	18	11	2	0
	情報セキュリティ管理士	3	24	31	13	5	0
	IT監査人	0	12	16	4	1	0
	CISSP	4	7	8	3	2	1
	CISM	1	7	2	3	1	0
	CISA	0	6	7	5	0	0
	CEH	1	4	6	1	1	0
	CND	0	7	7	1	1	0
	CompTIA Security+	1	1	7	2	0	0
	CompTIA CySA+	2	5	5	1	0	0
	CompTIA CASP+	2	0	5	0	1	0
	GIAC	1	3	5	0	0	0
	Cisco CyberOps	1	1	6	1	1	0
	AWS認定セキュリティ	1	14	18	8	1	0
Microsoft SC-900	2	7	12	2	1	0	
LPI Security Essentials	1	1	4	1	1	0	

各資格はどの世代が取得する傾向にあるのかを可視化する。基本的な資格は20代が多く、30代・40代となると実務的な資格の取得が目立つ。

# 資格の組み合わせ



## 保有者別 資格の組み合わせ

順位	資格の組み合わせ	保有数(人)
1	情報セキュリティマネジメント + 基本情報技術者	36
2	AWS認定セキュリティ + 情報セキュリティマネジメント	24
3	情報セキュリティマネジメント + 情報セキュリティ管理士	19
4	情報セキュリティマネジメント + 応用情報技術者	17
5	情報セキュリティ管理士 + 基本情報技術者	16
6	情報セキュリティマネジメント + 情報セキュリティ管理士 + 基本情報技術者	15
7	AWS認定セキュリティ + 基本情報技術者	14
8	CISSP + 情報セキュリティマネジメント	14
9	情報セキュリティマネジメント + 情報処理安全確保支援士	13
10	AWS認定セキュリティ + CISSP	12

## 複数資格保有者の人数

項目	人数(人)
セキュリティ関連の資格を保有している	318
(内訳)複数保有者	170
(内訳)一つ保有者	148
セキュリティ関連以外の資格を保有している	332
全く保有していない	350

- 「情報セキュリティマネジメント」と「基本情報技術者」の組み合わせが最も多く、IT基礎+セキュリティの“王道ルート”と言える。
- クラウド系(AWS認定)や国際資格(CISSP)との組み合わせも上位に多い。必要な技術と合わせたセキュリティの必要性を反映している結果と言える。
- 3資格以上の複合保有者も上位にランクインしており、キャリアアップや専門性強化志向が強いことがうかがえる。

資格保有者の約半数は複数の資格を保有していることがわかった。基礎的な資格から実務に即した資格と進んでいくことが多いといえる。

# 資格取得理由



## 資格取得理由

取得理由	回答数(人)	割合(%)
キャリアアップのため	151	47.5
業務をするうえで優位と思ったため	126	39.6
業務命令で取得	84	26.4
転職で優位と考えたため	63	19.8
上司・同僚の勧め	59	18.6
給与アップにつながるため	56	17.6
自己研鑽のため	51	16
その他	2	0.6

## 資格取得の傾向

- 「キャリアアップのため」「業務上有利」は全年代で多いですが、特に20～40代で多くなっています。
- 「業務命令」「上司・同僚の勧め」「給与アップ」も若年層～中堅層で多いです。
- 「自己研鑽のため」は全年代で一定数見られ、50代・60代では相対的に比率が高まります。
- 「転職で優位」「その他」は全体的に少数派です。

複数選択で回答としたため、資格取得した理由も複数あると考える。特に業務環境が変わったタイミングや、年代や役職が上がったタイミングなどにより、資格取得の理由も大きく変化すると考える。

## フリー記述より抜粋

- 客観的指標および業務遂行能力の向上による信頼性の向上  
「自信が持てるようになった」「社内外で信頼されるようになった」「顧客から信頼された」など、自己効力感や他者からの評価向上に関する記述が多い。さらに、「知識が増え、問題解決が早くなった」「業務効率が上がった」「現場で使える知識が増えた」など、実務力や専門性の向上を実感する経験も自信につながったと考える。また、管理職やエキスパート層では「責任ある仕事を任されるようになった」「部下や顧客から信頼されるようになった」といった声も目立つ。
- 共通した知識基盤の獲得によるコミュニケーションの円滑化  
「専門用語が理解できるようになり会議についていける」「顧客や同僚との会話がしやすくなった」「他部門との連携がスムーズになった」など、社内外のコミュニケーションが円滑になったという声も多い。
- 自己成長・自己満足・モチベーション向上  
「自己満足」「自己研鑽のため」「新しいことに挑戦する意欲が湧いた」など、自己成長やモチベーション維持に関する意見も見られる。

資格取得者の多くは資格を取得したことにより良い効果を感じている様相である。特にコミュニケーションが円滑になり、業務での成果(課題解決や効率化)にもつながることで信頼される。このような良い循環につながっているようである。

# 資格の複数保有の効果



## 資格の複数保有の効果

「資格取得後の変化を感じた」と回答した人の割合		
グループ	変化を感じた人数(人)	割合(%)
複数資格保有者	140	82
単一資格保有者	100	68
「資格の効果を感じた(非常に+ある程度)」と回答した人の割合		
グループ	効果を感じた人数	割合(%)
複数資格保有者	157	92
単一資格保有者	124	84
資格取得が「非常に役に立った」と回答した人の割合		
グループ	非常に役立った人数	割合(%)
複数資格保有者	70	41
単一資格保有者	51	35
資格取得が「あまり役に立っていない・全く役に立っていない」と回答した人の割合		
グループ	あまり/全く役立たない人数	割合(%)
複数資格保有者	13	8
単一資格保有者	24	16

## 資格保有者の意見の比較 (抜粋)

### 複数資格保有者

ポジティブな記述が多い

- 「キャリアアップや昇進に直結した」「業務の幅が広がった」「自信がついた」「社内外で信頼されるようになった」
- 「複数資格を組み合わせることで専門性や市場価値が高まった」「新しい分野にも挑戦できた」
- 「学び直しや自己研鑽の意欲が続く」「資格取得が次の挑戦の原動力になった」

### 単一資格保有者

ポジティブな記述もあるが、やや限定的

- 「昇進や転職時に有利だった」「最低限の知識が身についた」
- 「実務で使う機会が少ない」「会社の評価が低い」「自己満足にとどまる」「資格だけでは十分でない」
- 「次の資格取得へのモチベーションが続かない」「一つだけではキャリアの幅が広がりにくい」

資格を取得したことによる効果は、**複数資格を持つこと**により効果を感じやすくなる傾向が見て取れる。複数の資格を保有する相乗効果が資格取得効果をより実感する結果となった。

# 資格の未取得理由



## 未取得理由

理由	回答数(人)	割合(%)
業務に必要性を感じない	112	34.1
時間的余裕がない	63	19.2
費用面の負担が大きい	35	10.7
難易度が高いと感じる	43	13.1
企業からの評価・推奨・褒賞等が無い	28	8.5
興味がない	47	14.3
その他	0	0

## 未取得理由の意見（抜粋）

- **業務に必要性を感じない・興味がない**  
最も多い理由は「現在の業務で資格が必須ではない」「資格がなくても仕事ができる」といった実務上の必要性の低さ。特に現場での経験やOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)が重視される職場では、資格取得の動機が生まれにくい。また、「資格そのものに興味がない」「今後も取得する予定がない」といった、動機や関心の低さも一定数存在する。
- **時間的余裕がない・費用面の負担が大きい**  
「仕事が忙しい」「家庭との両立が難しい」「勉強時間が確保できない」といった、学習や受験のための時間不足が大きな障壁です。特に30代～40代の働き盛り世代でこの傾向が強く見られる。また、「受験料やテキスト代が高い」「会社の補助がない」「自己負担が重い」など、経済的な理由も無視できない。派遣社員や契約社員など、雇用が不安定な層ほどこの傾向が強い。
- **難易度が高いと感じる**  
「試験が難しい」「合格できるか不安」「過去問が難しい」など、資格試験そのものへの心理的なハードルも障壁となっています。特にIT未経験者や若手層で「何を勉強すればよいか分からない」「情報が少ない」といった声も多いです。
- **企業からの評価・推奨・褒賞等が無い**  
「会社が資格取得を評価してくれない」「報奨金や手当がない」「取得しても昇進や給与に反映されない」といった、組織側の支援やインセンティブ不足も障壁となっています。

未取得の理由には「資格取得で得られる効果を別の方法で享受している場合」と「資格取得に向く環境ではない」の2つの分けられる。OJTや経験が重視される場合や、難易度・会社補助制度・時間的余裕など環境面も大きく関わってくる要因と考えられる。

# 資格取得に向けて



## 実務

### 実務との連動・現場活用

- 資格取得後の業務アサイン: 取得資格を活かせる業務やプロジェクトへの優先配置。
- OJTや実務研修との連動: 資格学習と現場OJTを組み合わせた育成プログラム。

## 制度・配慮

### モチベーション向上・評価制度

- 資格手当・報奨金の支給: 取得資格に応じた手当や一時金の支給。
- 昇進・昇格要件への反映: 資格取得を昇進・昇格・人事評価の要件や加点にする。
- 社内表彰や可視化: 資格取得者の社内表彰やイントラネットでの紹介。

### 年代・ライフステージ別の配慮

- 若手向け: 基礎資格から段階的に支援、情報提供の充実
- 中堅向け: 専門・上位資格やキャリアアップ動機付け
- シニア向け: 後進育成・知識伝承の場や学び直し支援

## 支援・サポート

### 学習時間・費用のサポート

- 受験料・教材費の補助: 会社や団体による受験料・教材費の全額または一部補助。
- 業務時間内学習の許可: 繁忙期以外は業務時間の一部を学習に充てられる制度。
- eラーニングや通信教育の導入: 場所や時間を問わず学べる環境の整備。

### 学習コミュニティ・ピアサポート

- 社内学習グループや勉強会: 同じ資格を指す仲間同士の情報交換や励まし合い。
- メンター制度: 資格取得経験者による個別サポートやアドバイス。

### 情報提供・キャリア支援

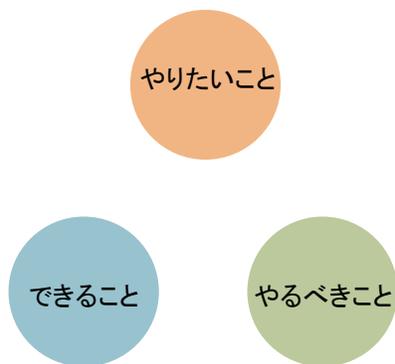
- 資格取得ガイドやロードマップの提供: 職種キャリア別に推奨資格や取得ステップを明示。
- 社内外の合格体験談・勉強会の開催: 先輩社員による体験共有や勉強会の実施。
- キャリアカウンセリング: 資格取得とキャリアパスの相談窓口設置。

資格取得は業務効率化や高い成果を生み出す1つの手段であり、取得者はその効果を実感している。未取得者の外的要因を解消させ取得促進の取り組みを行うことは企業側にも益になる可能性が見えた。

# 資格取得から自己実現へ



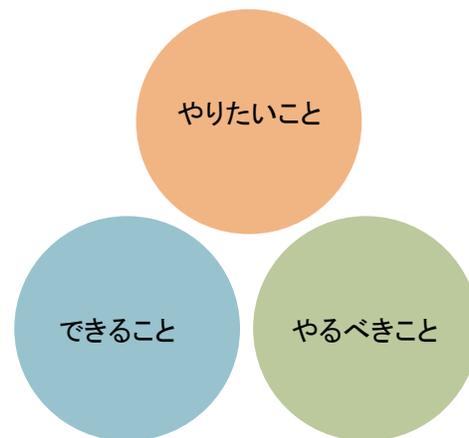
## STEP1:初期段階



### 基礎資格の取得

基礎的な資格取得で体系だった学習と『**できること**』が増える効果が期待できる

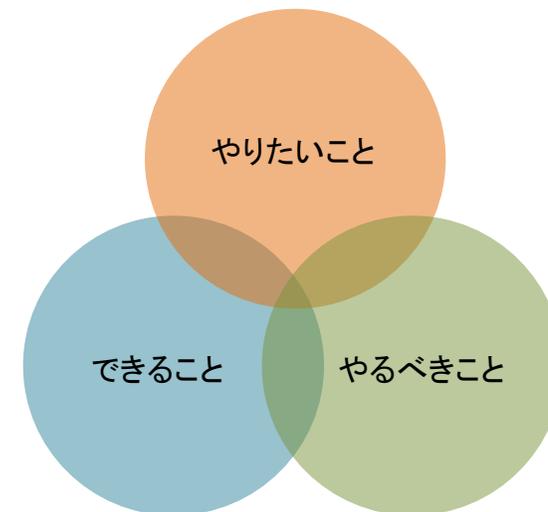
## STEP2:成長段階



### 複数資格・実務経験

関連資格の取得でスキルの幅が広がる。  
『**できること**』が増えることで、  
『**やりたいこと**』に手が届き始める

## STEP3:自己実現



### 理想的なキャリア状態

高度な専門性が確立。  
『**やるべきこと**』と『**やりたいこと**』が一致し、  
それを実現する能力が備わった状態

資格取得は『**できること**』を体系的に広げ、『**やるべきこと**』の質を高め、『**やりたいこと**』の実現を加速させる

# キャリアを広げる資格取得へ



## その他資格の一覧

資格名	取得年代(例)	人数(記載数)
危険物取扱者	20代	3
消防設備士	20代	2
衛生管理者	30代	2
日商簿記2級・3級	20代、30代	4
社会保険労務士	30代	1
宅建	30代、40代	3
JQA内部監査者	30代	1
情報活用試験1級	30代	1
電気工事士	30代、50代	2
ISO27000ファウンデーション	40代	1
内部監査士	50代	1
診療情報管理士	30代	1
中小企業診断士	40代	1
MBA	30代、40代	2
教員免許	20代	2
行政書士	30代、40代	2
技術士	40代	1
ビル管理士	40代	1
アマチュア無線	30代	1

### 代表的な記述例(抜粋)

- 「危険物取扱者、消防設備士の資格を持っていますが、燃料の正しい取り扱いや火災時の対処を学べた」
- 「衛生管理者の資格を取得し、職場の安全衛生管理に役立っている」
- 「日商簿記2級・3級を取得し、経理や財務の業務に活かしている」
- 「社会保険労務士の資格で、労務管理や手続きが自分のできるようになった」
- 「宅建を取得し、不動産関連の業務に従事」
- 「JQA内部監査者(30代)として品質管理に携わる」
- 「情報活用試験1級(30代)で所属部署の用語が理解できるようになった」
- 「電気工事士の資格で自宅の電気工事ができるようになった」
- 「診療情報管理士(30代)で職種を変えた」
- 「中小企業診断士を取得して転職に有利に働いた」
- 「MBAを取得しキャリアアップ」
- 「教員免許が重宝されている」
- 「行政書士で役所への提出書類が作成できる」
- 「技術士で品質確保に貢献」
- 「ビル管理士でビルメンテナンス業界で有利」
- 「アマチュア無線、陸上無線の資格で公共電波の正しい利用を学んだ」

守る対象を理解することはセキュリティ担当者は重要となる。これは、セキュリティ以外の興味関心・資格の取得などを行うことでキャリアを広げる効果が期待できる。実際、セキュリティ以外の資格を取得し保有している人はより多くの効果を感じているようである。

本アンケート調査は、セキュリティ人材および関連業務従事者を対象に、資格保有状況やその背景、資格取得の動機や障壁、キャリアへの影響などを多角的に明らかにすることを目的として実施されたものである。その結果、全体の約65%が何らかの資格を保有し、約32%がセキュリティ関連資格を保有していることが分かった。特に「情報セキュリティマネジメント」や「基本情報技術者試験」などの基礎資格の取得率が高く、30代～40代では「AWS認定セキュリティ」や「CISSP」などのクラウド・国際資格の取得も一定数見られた。

資格取得の主な動機は「キャリアアップ」「業務上の優位性」「業務命令」「転職や給与アップ」「自己研鑽」など、キャリア形成や業務上の必要性が中心となっている。資格取得後には「昇進・昇給」「業務上の自信や信頼性向上」「知識・スキルの体系化」「コミュニケーションの円滑化」など、実務やキャリアに直結するポジティブな変化を感じている人が多い。一方で、「時間や費用の確保」「モチベーション維持」「年齢や記憶力への不安」「会社の支援・評価不足」「実務とのギャップ」など、さまざまな障壁や課題も浮き彫りとなった。

また、年代や職種によって資格取得の傾向や課題も異なり、20代はIT基礎資格の取得が中心、30代～40代は専門性や管理職向け資格の取得が増加、50代以降は新規取得が減少し、既存資格の活用や後進育成が主な動機となっている。職種別では、一般社員はキャリアアップ志向が強く、管理職や経営層は実務経験や組織全体のリスク管理を重視する傾向が見られた。

総じて、資格取得はキャリアアップや専門性の証明、業務効率化、自己成長など多面的なメリットをもたらす一方、現場での実用性や会社の評価体制、学習支援の充実など、今後の人材育成や組織施策において解決すべき課題も明確になっている。今後は、個人のキャリアパスやライフステージに応じた資格取得支援、実務と資格の橋渡し、会社の評価・報奨制度の見直しなど、より実効性のある施策が求められる。資格取得を通じて人材の専門性と市場価値を高め、組織全体のセキュリティレベル向上につなげていくことが望まれる。

# ワーキンググループ活動実績



タイトル	掲載日
セキュリティ人材の確保と育成	2025/5/28
学生のキャリア意識調査レポート2	2024/7/25
学生のキャリア意識調査レポート	2023/2/16
セキュリティ業務職種のキャリア展望について	2021/5/20
セキュリティ業務を担う人材のスキル可視化における概念検証報告書 ～トライアル結果の考察～	2019/11/25
キャリアパスグランドデザインの考察_ver1.0	2019/10/7
セキュリティ業務を担う人材の現状調査報告書（2018年下期調査）	2019/6/19
セキュリティ業務を担う人材の現状調査報告書（2018年上期調査）	2018/11/2

ISEPA 情報セキュリティ教育事業者連絡会 (<https://www.jnsa.org/isepa/>) で公開中

# 問い合わせ先



情報セキュリティ教育事業者連絡会（ISEPA）

メールアドレス：[sec@jnsa.org](mailto:sec@jnsa.org)

WGメンバー募集中  
月1回程度 オンラインを中心に活動中



# 參考資料

# 選定20資格の一覧



資格名	
情報セキュリティマネジメント	CISA (Certified Information Systems Auditor)
基本情報技術者試験	CEH (Certified Ethical Hacker)
応用情報技術者試験	CND (Certified Network Defender)
情報セキュリティ管理士	CompTIA Security+
脆弱性診断士	CompTIA CySA+
AWS認定セキュリティ	CompTIA CASP+
情報処理安全確保支援士	GIAC (Global Information Assurance Certification)
IT監査人	Cisco Certified CyberOps Associate
CISSP (Certified Information Systems Security Professional)	Microsoft Certified: Security, Compliance, and Identity Fundamentals (SC-900)
CISM (Certified Information Security Manager)	LPI Security Essentials

# 回答者の属性



全回答者		
本調査対象者	1000	100.0 %

性別		
男性	806	80.6 %
女性	192	19.2 %
未回答	2	0.2 %

世代		
平均値	48.17	
最小値	20.00	
最大値	69.00	
20代	84	8.4%
30代	211	21.1%
40代	229	22.9%
50代	235	23.5%
60代	241	24.1%

所属部門		
顧客サービス提供部門(事業部門)	283	28.3%
自社内セキュリティ対応部門 (独立部門・チーム)	253	25.3 %
自社内セキュリティ対応組織 (横断型組織、兼務)	233	23.3 %
その他組織	231	23.1 %

セキュリティ業務経験		
1年未満	42	4.2 %
1～3年	165	16.5 %
4～6年	186	18.6 %
7～10年	193	19.3 %
11～15年	137	13.7 %
16～20年	78	7.8 %
21年以上	199	19.9 %

職員		
経営層(役員・部長クラス以上)	286	28.6 %
管理職(課長・係長など)	217	21.7 %
エキスパート職(役職にはついていないが、 役職者と同待遇)	146	14.6 %
一般職(スタッフ・技術者など)	320	32.0 %
その他(インターン、アルバイトなど)	31	3.1 %

職業		
会社勤務(一般社員)	358	35.8 %
会社勤務(管理職)	255	25.5 %
会社経営(経営者・役員)	99	9.9 %
公務員・教職員・非営利団体職員	85	8.5 %
派遣社員・契約社員	37	3.7 %
自営業(商工サービス)	97	9.7 %
SOHO	22	2.2 %
農林漁業	6	0.6 %
専門職(弁護士・税理士等・医療関連)	27	2.7 %
パート・アルバイト	7	0.7 %
その他の職業	7	0.7%

# 資格保有状況



		基本情報 技術者	応用情報 技術者	脆弱性診 断士	情報セ キュリテイ マネジメ ント	情報処理 安全確保 支援士	情報セ キュリテイ 管理士	IT監査人	CISSP	CISM	CISA	CEH	CND	CompTIA Security+	CompTIA CySA+	CompTIA CASP+	GIAC	Cisco CyberOp s	AWS認 定セキュ リティ	Microsoft SC-900	LPI Security Essential s	その他資 格
年代	20代	10	9	3	9	3	5	3	5	3	0	2	3	1	3	2	2	1	4	2	1	3
	30代	43	23	22	34	11	26	9	3	4	2	3	5	2	3	2	1	2	17	9	2	3
	40代	30	21	14	47	15	20	12	12	5	9	7	5	4	5	3	5	2	12	8	1	7
	50代	21	14	6	20	11	16	7	0	2	4	1	1	2	2	0	0	4	4	2	2	3
	60代	21	9	2	22	3	9	2	5	0	3	0	2	2	0	1	1	1	5	3	2	7
業務経験	1年未満	3	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	1
	1～3年	15	9	12	20	6	13	4	2	3	2	1	4	0	3	0	1	1	6	0	0	4
	4～6年	27	23	14	32	12	19	11	6	3	3	3	3	3	3	4	3	4	10	5	2	4
	7～10年	28	17	3	26	8	19	7	8	4	3	6	2	5	4	1	2	0	10	6	2	2
	11～15年	23	11	7	21	9	10	6	2	2	5	1	2	1	1	0	0	1	7	4	1	5
	16～20年	11	10	7	16	6	10	4	4	1	3	1	2	2	2	2	2	2	5	4	1	1
	21年以上	18	6	1	13	2	5	1	3	1	2	1	3	0	0	1	1	2	3	2	2	6

# 資格の組み合わせ



	順位	組み合わせ	保有人数
20代	1	基本情報技術者 × 応用情報技術者	20
	2	基本情報技術者 × 情報セキュリティマネジメント	15
	3	応用情報技術者 × 情報セキュリティマネジメント	10
	4	脆弱性診断士 × 基本情報技術者	8
	5	CISM × 基本情報技術者	7
	6	AWS認定セキュリティ × 基本情報技術者	7
	7	情報セキュリティ管理士 × 基本情報技術者	6
	8	CISSP × 基本情報技術者	5
	9	CompTIA系 × 基本情報技術者	5
	10	CND × 基本情報技術者	4

	順位	組み合わせ	保有人数
50代	1	LPI Security Essentials × 情報セキュリティマネジメント	5
	2	CISSP × 情報セキュリティマネジメント	5
	3	情報セキュリティマネジメント × 基本情報技術者	4
	4	CISA × 情報セキュリティマネジメント	4
	5	情報セキュリティ管理士 × 情報セキュリティマネジメント	4
	6	AWS認定セキュリティ × 情報セキュリティマネジメント	4
	7	CompTIA系 × 情報セキュリティマネジメント	3
	8	IT監査人 × 情報セキュリティマネジメント	3
	9	CISM × 情報セキュリティマネジメント	3
	10	GIAC × 情報セキュリティマネジメント	2

30代	1	情報セキュリティ管理士 × AWS認定セキュリティ	12
	2	情報セキュリティマネジメント × 基本情報技術者	12
	3	情報セキュリティマネジメント × 情報セキュリティ管理士	10
	4	AWS認定セキュリティ × 情報セキュリティマネジメント	10
	5	応用情報技術者 × 情報セキュリティマネジメント	9
	6	GIAC × 情報セキュリティ管理士	8
	7	CISSP × 情報セキュリティマネジメント	7
	8	CompTIA系 × 情報セキュリティ管理士	7
	9	IT監査人 × 情報セキュリティ管理士	6
	10	CISA × 情報セキュリティマネジメント	6

60代	1	CISSP × 情報セキュリティマネジメント	2
	2	LPI Security Essentials × 情報セキュリティマネジメント	2
	3	情報セキュリティマネジメント × 基本情報技術者	2
	4	CISA × 情報セキュリティマネジメント	2
	5	情報セキュリティ管理士 × 情報セキュリティマネジメント	2
	6	CompTIA系 × 情報セキュリティマネジメント	1
	7	IT監査人 × 情報セキュリティマネジメント	1
	8	CISM × 情報セキュリティマネジメント	1
	9	AWS認定セキュリティ × 情報セキュリティマネジメント	1
	10	GIAC × 情報セキュリティマネジメント	1

40代	1	情報セキュリティマネジメント × 基本情報技術者	14
	2	情報セキュリティマネジメント × 情報セキュリティ管理士	13
	3	AWS認定セキュリティ × 情報セキュリティマネジメント	12
	4	CISA × 情報セキュリティマネジメント	10
	5	CISSP × 情報セキュリティマネジメント	9
	6	情報セキュリティ管理士 × 基本情報技術者	8
	7	応用情報技術者 × 情報セキュリティマネジメント	8
	8	IT監査人 × 情報セキュリティマネジメント	7
	9	CompTIA系 × 情報セキュリティマネジメント	7
	10	CISM × 情報セキュリティマネジメント	6

# 年代別資格取得・未取得理由と課題



取得理由	20代	30代	40代	50代	60代
キャリアアップのため	38	42	38	24	9
業務をするうえで優位	32	36	32	18	8
業務命令で取得	21	23	22	13	5
転職で優位と考えたため	17	15	13	8	2
上司・同僚の勧め	15	14	13	8	2
給与アップにつながるため	13	13	12	7	2
自己研鑽のため	12	13	13	10	6
その他	1	2	2	1	0

未取得理由	20代	30代	40代	50代	60代
業務に必要性を感じない	24	23	23	22	20
時間的余裕がない	18	13	12	10	10
費用面の負担が大きい	8	7	7	7	6
難易度が高いと感じる	10	9	8	8	8
企業からの評価・推奨が無い	6	6	6	5	5
興味がない	9	9	10	10	9
その他	0	0	0	0	0

世代	取得における主な課題・障壁
20代	情報不足・勉強方法がわからない・経験不足による不安・費用負担・何を勉強すればよいか迷う
30代	時間の確保(仕事・家庭との両立)・費用負担・モチベーション維持・効率的な学習が難しい
40代	実務とのギャップ・資格の実用性への疑問・モチベーション維持・会社の評価・支援不足
50代	年齢・記憶力・体力の低下・新しい知識の習得が困難・モチベーション低下・自己満足にとどまりやすい
60代～	必要性・モチベーションの低下・新しい資格取得への意欲減退・知識・経験の伝承が中心